

1. 建学の精神・大学の基本理念、使命・目的、大学の個性・特色等

1. 花園大学の建学の精神・基本理念

本学は明治 5（1875）年、臨済宗の宗門後継者を養成するための教育機関として京都・妙心寺の中に創設された「般若林」を起源とする。般若林は、若き宗門後継者たちが、禅宗の伝統的な修行道場である「僧堂」で実践修行に踏み出す前に、予め「仏教学」「漢文学」「臨済宗学」といった基本的学問の素養を身に付けることを目的として創設した。

この般若林はその後、幾度かの変遷を経て、昭和 24（1949）年、花園大学（仏教学部仏教学科）となり、昭和 41（1966）年には、文学部に仏教学科、社会福祉学科、史学科、国文学科の 4 学科を設置して、宗門後継者以外にも多くの学生も受け入れることとなった。さらに平成 4（1992）年には社会福祉学部を設置し、2 学部制の大学となり、平成 6（1994）年には大学院も設置。現在では、文学部 5 学科、社会福祉学部 3 学科、大学院文学研究科 3 専攻、大学院社会福祉学研究科 1 専攻という体制になっている。

本学は、臨済宗という日本独自の仏教宗派を基盤として発足した大学であることから、その建学の精神は臨済禅の上に成り立っている。禅の思想を土台とした心の修練、強く優しく生きることのできる人格の形成、つまり「禅的仏教精神による人格の陶冶」がその基本理念である。いかなる困難時にも、果敢にたくましく生きるための智慧と精神力を磨くところに、本学の教育理念がある。

2. 花園大学の使命・目的

花園大学学則第 1 章「大学の目的綱領」第 1 条には「本学は高等の知識を授け、専門の学術を教授研究し、仏教精神によって人格を陶冶し、人類文化に貢献する人物の養成を目的とする」と、本学の使命・目的を明記している。ここに謳っているように、本学の使命・目的は、一般の大学と同じく、学生に専門的な知識を教授することは当然のことながら、それに加えて、仏教精神を通じて人格の向上を目指し、社会に貢献できる人物を養成することにある。本学がいうところの仏教精神の根幹は、設立母体である妙心寺派の宗旨である臨済禅にある。外界にいる超越的な神や仏に祈り頼って救いを求める他力の仏教とは違って、臨済禅は自己をみつめ、自己を鍛錬することで優れた智慧を身に付けることを根本教義とする。その優れた智慧により、困難な世の中で強く生きていくための力を養っていかうと考える。

このような臨済禅の基本理念は、様々な災厄、困難に見舞われ続ける現代社会の中で、力弱き我々人間が、いかにその難事に立ち向かい、安穏な人生、安定した社会を作り上げていくことができるか、という問題に対して、明確な解答を与えている。「自己を磨き、真に正しい智慧を養うことが、幸福への唯一の道だ」と説く禅の教えは、現代のこのような状況においてこそ強い力を発揮する。それを教育の一番の基本理念として設定し、その上にすべての本学の教育システムは成り立っている。

3. 花園大学の個性・特色

前述の通り、本学は現在文学部 5 学科、社会福祉学部 3 学科、大学院文学研究科 3 専攻、大学院社会福祉学研究科 1 専攻という体制で運営しており、それぞれが独自の教育体制を保持していることに加え、建学の精神をその全体に行き渡らせるための個性的な取組みを随所に取り入れている。

まず、本学の学長は、「禅的仏教精神による人格の陶冶」の実践者として位置づけている。本学の学長推薦規程第 2 条には「学長候補者の資格は、臨済宗に僧籍を有する者で、師家分上の者または学徳・識見ともに優れた者の中から推薦する」とし、学長として推薦される者は、「臨済宗の僧籍を持つ者」という基本条件の上に、さらに「師家分上の者、または学徳・識見ともに優れた者」という補足条件を課している。これはすなわち、本学の学長になる者は、必ず臨済宗の伝統的継承者で、かつ建学の精神を体現するすぐれた仏道修行者でなければならないということを意味している。真の教育が、人と人の高度なコミュニケーションを必須とする以上、最高位に立つ学長をすぐれた仏道修行者に限定する本学の姿勢は、きわめて個性的であると同時に、教育の本道をいく方針であると自負している。

次に、建学の精神である禅仏教に対しては、欧米諸国の人々からの注目度が非常に高まってきている。いまや「ZEN」は国際語である。この禅に対する世界的関心に対応するため、昭和 61 (1986) 年、国際禅学研究所を開設した。ここでは世界に先駆けた禅語のデジタルデータを国内外に広く発信し、世界中の研究者に禅研究のための基本情報を提供している。また、臨済禅の代表的禅者であり、禅の民衆化において多大な影響を与えた白隠慧鶴禅師に関する様々な研究・紹介を行っており、その結果として今や白隠は禅の世界での傑出した啓蒙家として国内、国外を問わずその名が知れ渡ってきた。これも本研究所の果たした大きな功績である。

また本学は、京都の宗門大学では初めての博物館相当施設である花園大学歴史博物館を平成 12 (2000) 年に開館した。この博物館は、本学の調査・研究活動によって収集した史資料をもとに、考古学、民俗学、美術・禅文化、歴史学・典籍などの諸部門毎に常設展示を行っており、さらには年数回の特別展示を実施し、博物館学芸員資格取得のための実習の場を提供するとともに、広く市民に公開することで、生涯学習の機会を提供している。

また、建学の精神を基盤とし、種々の組織とタイアップして情報発信のノウハウを蓄積し、それを発信するための企画を、機会あるごとに行っており、その成果は新聞などのメディアでも広く伝えられている。著名なミステリ作家によるミステリ講座、社会的に著名な専門家を招聘しての公開講演会、学長を主とした各地での花園大学公開講演会も実施している。

本学の特徴の一つとして、人権教育研究センターの活動がある。建学の精神にある「人格の陶冶」に、人権の尊重が含まれることは言うまでもないが、その精神を具現化し、教育に反映するための施設である。本センターは、人権問題を探求し、差別的な考えや行動を社会から一掃するための機関として設けた。教員と学生が合同で行う机上の勉強会はもちろんのこと、フィールドワークを通し、体験として人権意識を養成するという方法も取り入れている。なお、他大学でもこれに類する機関が設けられているが、本センターは、定期的に研究・啓発を目的とする数種の出版物を持つことで、格段の活動の活発化を図っ

ている。

また、一時多くの大学が京都市内から周辺部へと移転していく時期も、本学は常に京都の中心部にあり続けてきた。現在も4年制大学で京都の中心である中京区に本部を置く数少ない大学であり、また、古代平安京地内に立地する希有な大学である。このような地勢的特性を考慮して、本学では他大学に先駆けて「京都学」を提唱してきた。周知の通り、延暦13(794)年に平安京が建設されて以降、明治元(1868)年に明治政府が成立するまで、千年以上にわたって京都は日本の首都であったが、その間多くの期間、政治・文化・宗教などの面で日本文化の中心地として機能してきた。

そこで本学は「京都学」という講座を設け、文学部を中心に学科を越えた授業を展開してきた。地元京都の文化を深く研究し、地域に還元することも本学の使命である。

本学は、こうした種々の学部・学科設置、付属機関の開設、企画・イベントの実施などにより、臨済禅を建学の精神の根底に据え、禅の現代的意味を探求する世界で唯一の大学であることを自覚し、「禅の教えに基づいて、古都京都で独自の教育活動を展開する大学」としての立場を着実に固めてきている。